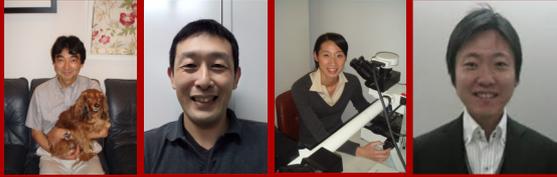


イヌの細菌叢からのアレルギー抑制細菌の探索

私たちが取り組んでいます！



阪口雅弘 内山淳平 根尾 櫻子 村上裕信

【研究チーム】

- 代表者：阪口 雅弘（獣医学部 獣医学科 微生物学第一研究室 教授）
メンバー：久末 正晴（獣医学部 獣医学科 内科学第二研究室 准教授）
五十嵐 寛高（獣医学部 獣医学科 小動物内科学研究室 講師）
内山 淳平（獣医学部 獣医学科 微生物学第一研究室 講師）
根尾 櫻子（獣医学部 獣医学科 内科学第二研究室 講師）
福山 朋季（獣医学部 獣医学科 薬理学研究室 講師）
村上 裕信（獣医学部 獣医学科 衛生学第二研究室 助教）

ほか3名

めざすこと（研究目的）

乳幼児期のペット飼育はアレルギーを予防するという報告
➡ 本研究はペット由来のアレルギー抑制細菌の発見をめざす

やること（研究方法）

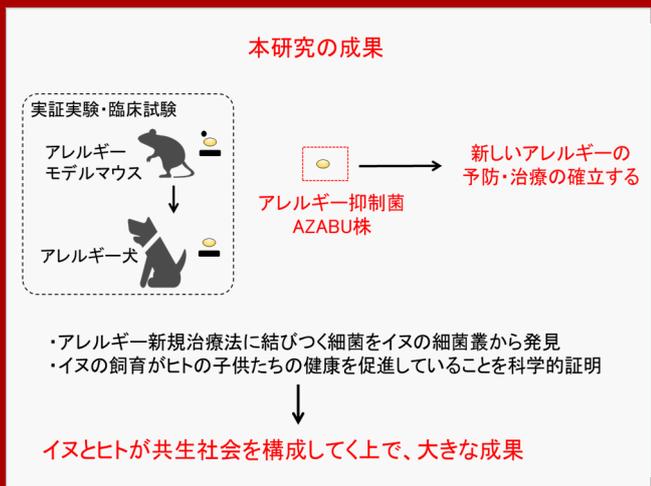
非アトピー犬からのアレルギー抑制候補細菌の分離



- アレルギー犬、非アレルギー犬の口腔内、糞便の細菌叢全体のDNAを抽出する
- 次世代シーケンサーを利用して細菌叢遺伝子解析し、アレルギー抑制細菌候補菌に関して絞り込みを行う
- 候補細菌はサイトカインプロファイルを解析し、さらにアレルギーマウスで候補細菌のアレルギー抑制作用を調べる

わかること・できること（成果）

アレルギー抑制細菌の発見はアレルギーの新規治療法の開発につながる。また、イヌの飼育がヒトの子供たちの健康を促進していることを科学的に証明したことになり、今後、イヌとヒトが共生社会を構成してく上で、大きな成果になると考えられる



こんなふうに研究しています！



アレルギー抑制候補菌を分離しているところ

キーワード解説

ペット飼育によるアレルギー予防：1999年 Hesselmarらがペットを乳児期に飼育すると学童期の気管支喘息罹患率が低いことを初めて報告した。その後、乳幼児期におけるペットの飼育がアレルギーの発症に抑制的に働くとする研究が欧米の有力な研究グループから相次いで報告された。そのメカニズムとしてペット由来のアレルギー抑制細菌または細菌由来の物質などが乳幼児に影響を与えることが可能性として考えられている